

ユニセフ子どもネット メーキングリスト

ユニセフ・エジプト事務所の 大澤さんにインタビュー



UNICEF Egypt/Osawa



こんにちは! 子どもネットワークの秦です。みんなは、ユニセフのスタッフが海外でどんなお仕事をしているのか、興味あるよね? ユニセフ子どもネットのメーキングリストを通じて、日本から遠く離れたエジプトでユニセフのお仕事をしている大澤祐子さんが、ネットワークとのインタビューに答えてくれました。これは、夏休みの7月28日から8月5日におこなわれ、わずか9日間でしたが、たくさん質問をすることができたので、みなさんにインタビューのようすを報告します!

大澤さんからのメッセージ

みなさん、はじめまして! ユニセフ・エジプト事務所の大澤祐子です。このインタビューを通じてエジプトでおこなわれているユニセフの仕事はもちろん、みなさんになじみの薄いエジプトという国をよりよく知ってもらえたらなあって思っています。

昨年11月よりユニセフ・エジプト事務所の子ども保護担当として、主に子ども、女性や女の子への暴力防止に取り組んでいます。女性や女の子への人権を無視した行為である女性性器切除を廃絶するプロジェクトの立ち上げから、現在進行中のプロジェクト管理までをおこなっています。ほかに、子どもの保護に関する問題として、子どもの労働、ストリートチルドレンや障害のある子どもの問題に取り組んでいます。

赴任して9か月と日が浅いのですが、以前から中東地域に関心があったので、みずからこの任地を希望しました。日本のメディアでは、「中東=テロリスト」と描写されるのが多いことにふと疑問を感じ、自分の目と耳で確かめたいと思うことからはじまりました。大学院在学中、イスラエルにあるパレスチナのNGOで短期間働いた経験がありますが、実際に腰をすえて現地にいるのははじめてで、毎日が新しい発見でいっぱいです。みなさん、どうぞよろしくお願ひします!



大澤さんが女性性器切除廃絶に向けたプロジェクトの視察に訪れたときに、プロジェクトのために働いているスタッフと撮った写真です
UNICEF Egypt/Osawa

PROFILE

1995年に慶応義塾大学法学部政治学科を卒業後、総合商社の広報室に3年勤務。その後、開発関係の職業につきたいという思いから、アメリカのニューヨークに渡り、コロンビア大学国際関係公共政策大学院で開発学を学ぶ。コロンビア大学在学中の2000年1月から2002年8月まで、国連本部のあるニューヨークの国連ボランティア計画北米駐在事務所にて「2001年ボランティア国際年」の広報渉外活動を担当。2002年11月から、ユニセフ・エジプト事務所の子ども保護担当として活躍中。



明るいエジプトの子どもたち
UNICEF Egypt/Osawa

エジプト主要データ



国名	エジプト・アラブ共和国
首都	カイロ
面積	100万1,449平方キロメートル (日本の約2.65倍)
人口	6,908万人
主な宗教	イスラム教
言語	アラビア語
5歳未満児の死亡率	出生1,000人あたり41人 (世界で83位)
成人の識字率	男性67パーセント / 女性44パーセント
初等教育純就学率	男性88パーセント / 女性84パーセント

おもなデータは「世界子供白書2003」による

Q エジプトと聞くと、ピラミッドや砂漠というイメージです。実際のエジプトとはどんな国で、人びとの暮らしや子どもの現状はどうなっていますか? また水不足はないのですか? 文化や習慣、宗教についても教えてください。(秦 聖一郎 17歳)

A エジプトは、中東でサウジアラビアについて2番目の経済大国です。また中東文化の中心でもあります。宗教は、国民の約94パーセントがイスラム教徒、残り6パーセントがキリスト教徒です。エジプト人は基本的にとても社交的で明るい人びとだと思います。日本人と大きく違う点といえば、よく言って大ざっぱなところ。その代表例が時間にルーズなことですね。

水の問題ですが、エジプトはナイル川の水に頼っているため、人口の97パーセントがナイル川の流域に暮らしています。いまのところ水不足に関してあまり耳にすることがありません。ただ安全な水の確保(家庭への水道設備が整っていないこと)は問題になっていて、ユニセフは家庭への水道とトイレの導入に力を入れています。さらに、公衆衛生に関する広報活動にも力をいれています。

Q 今現在の「エジプトの治安」はどういう感じなんですか?
(中佐 友衣 16歳)

A 私が住んでいるカイロはとても治安が良いところです。以前はニューヨークに住んでいたのですが、カイロのほうが、治安が良いと思います。夜遅くひとり歩いていても危ない目にあったことはありません。ただ、上エジプト(ナイル川上流地域)は危険地域とされていて、行く前に政府へ報告しないと行けないのです。

Q 子どもたちはどんな暮らしをしているんでしょうか? エジプトの子どもたちが通う学校は、どんなようすですか?
(三木 綾子 13歳)

A エジプトの学校制度の問題点は、学校環境と教育の質の悪さです。「知識詰め込み型」の教育で、先生の質の悪さが大きな問題になっています。多くの子どもたちが家庭教師に頼らざるをえない状況です。そして、家庭教師代を払うことのできない、貧しい家庭の子どもたちは学校を途中でやめてしまうことが多いのです。また、学校では1クラスの人数が44人と多いのに、教室の大きさが人数に合わず、小さすぎます。学校には、トイレはかならずあるのですが、100人あたりにトイレがひとつというのが平均のようです。このためユニセフは、学校のトイレ設備の改善をすすめています。農村では女の子への教育(女子教育)が進んでいません。そのため、「コミュニティスクール」、つまり「村学級」を特に貧しい地域に開設しています。豊かな家庭の子どもたちは、教育の質が高く、設備の整った私立に行くのが普通です。このような子どもたちは日本の同じ年の子どもたちと同じような暮らしかたをしています。



ユニセフでは女子教育の推進にも力を注いでいます
UNICEF/Baquer Namazi

Q エジプトに、貧富の差はありますか? もしもあるとしたら、どれぐらいの差があるのですか? 特に、スラムや地方の人びとの暮らしについて知りたいです。
(品川 夏乃 16歳)



こんな質問や意見があったよ！



ネットワークから出た質問や意見と、大澤さんのお返事を、みなさんにお伝えします！

A 貧富の格差はもちろん、地域格差がかなりあります。南北格差といってもいいですね。ナイル川下流の都市部に豊かな人びとが集中し、南部の3県においては貧困をあらわす指標、乳幼児の死亡率や子どもの栄養不良の割合が高くなっています。これは基本的な保健や福祉の制度が整っていないためです。人口の55パーセントが1日2ドル以下の収入で暮らしています。

カイロ郊外に有名な「ごみ収集者」のスラムがあります。彼らにとってごみは「財産」なので、家の中にあります。最近NGOなどの支援で、ようやくごみと台所、洗面所がわかれるようになってきました。トタン屋根の粗末な住居がほとんどですが、最近ではレンガの建物もみられるようになりました。

Q エジプトでの差別問題に関して知りたいです。宗教の関係上、実際に女性の立場はどうなのでしょう？ (中佐 友衣 16歳)

A 多くの人びとは、イスラム教は女性を差別していると勘違いしているかもしれませんが。無理もありません。戒律を通じて、ヴェールの着用を強制したり、運転の禁止など行動の制約をしたりして、女性を差別している国が実際あるのですから。しかし、イスラムは本来、他の宗教よりも男女平等を重んじている宗教です。問題は、どうイスラムを解釈するかです。

エジプトでは、特に南の地域に住む貧困層の人びとが、女性は教育を受ける必要はないと思っています。また、「適齢期」を迎えた未婚の女性たちは一家の「名誉」を汚さぬよう、親よりも兄弟によって行動の制約を受けています。

私は、女性の性器切除の廃止に関するプロジェクトの担当をしています。女性性器切除は、現在、アフリカの28カ国でおこなわれている女の子の人権に反する暴力行為です。思春期を迎える前の女の子がこの「処置」にあっていて、女の子の同意も得ず、ときには力づくで、女性の性器の一部を切除します。健康を害するだけでなく、精神的にも傷として一生残ってしまいます。

この問題の原因には社会における女性の地位の低さにあります。女性には「こうあるべきだ」という考えがあてはめられるのに、男性は「何をやってもオッケー」です。この問題はエジプトが抱える「女性差別」を象

徴的にあらわしているようです。ユニセフは、この問題について意識をあらためてもらえるように、啓蒙活動をしたり、情報提供をしたりしていますが、人びとの意識を変えるのに時間はかかります。



家庭の水道設備が十分ではないため、遠くまで水をくみに行く子ども UNICEF/Baquer Namazi

Q 大澤さんは、どのようにしてユニセフの職員になったのですか？また、どうしてなろうと思ったのですか？ (品川 夏乃 16歳)

A 私は特に女性の人権の保護や、女性への暴力問題に関心があり、子どもと女性のために積極的に取り組んでいるユニセフに関心がありました。今はアソシエイトエキスパート制度(日本政府が日本人の国連職員を増やすために実施している制度)を利用して、ユニセフで働いています。営利の追求ではなく社会的に立場の弱い人のために働きたいと思ったことと、大学時代に訪れた東南アジアの国ぐにで、貧富の格差を目の当たりにし、何とかしたいと思い開発学を勉強して今にいたりします。

Q エジプトでの仕事のなかで、今、最も重要なことはどんなことでしょうか？ (けいこ 15歳)

A エジプトでは、よくアフリカにありがちと思われるような問題、つまり内戦や飢饉などはありません。ただ、エイズの増加率が200パーセント近く、HIV/エイズが広まる危険要素(麻薬の横行、女性のHIV/エイズ感染率の増加)が見られるためや断を許しません。また、エジプトにはまだポリオがあり、ポリオ撲滅のための重点国になっています。識字率も平均50パーセント台とかなり低いのが問題です。男女平等の意識が低く、女子教育への軽視や女性性器切除など、女の子の人権をそこなうような問題も多くみられます。

Q 子どもと実際に接する活動はありますか？また、エジプトにも「ユニセフ子どもネット」のようなものがありますか？ (けいこ 15歳)

A 子どもと接する機会はあります。そこが、ユニセフの良いところだと思います。ユニセフは確かに、援助を直接実施する機関ではありませんが、すべての過程に関わって、プロジェクトの「監視」をおこなっています。ですから、支援事業の活動を見に行くことが多く、たくさんの子どもたちにも出会いました。

残念ながら子どもネットはありません。ただ、「子どもの権利条約」をフォローする子どもたちが参加する「子どもの権利委員会」がつくられていたりします。

実際にプロジェクトをおこなっているのは、現地の政府や住民、NGOなどで、ユニセフは主に計画を立てたりアドバイスをしたりすることが多いです。

Q ストリートチルドレンに対して、現地では具体的にどのような活動を実施しているのでしょうか？また、そのような子どもたちに対しての施設などについても知りたいです。 (中佐 友衣 16歳)

A ストリートチルドレンは主に都市部にみられ、年齢はだいたい2歳から18歳、男の子も女の子もいます。多くの子どもたちは栄養不良で、皮膚病があり、道ばたで暮らしています。いやおうなく物乞いをしたり、買春の犠牲になったりするため、自分の心や体を大切にできず、精神的な病気を抱えている子もいます。ストリートチルドレンは、社会的に弱い立場に置かれており、暴力をふるわれる対象にもなっています。また、タバコや麻薬を飲用しているストリートチルドレンがほとんどです。最近になって社会問題としての認識が高まり、今年初めにユニセフは、政府機関とともにストリートチルドレンに対応するための国家戦略を打ち立てました。今、ユニセフは政策レベルでストリートチルドレンへの対応をおこなっています。主なものが行動計画の策定です。エジプトでは、法を犯した子どもは、少年刑務所もないため、おとなと同じ劣悪な環境の刑務所に入れられ、そこで暴力にあうこともあります。そのため、少年法の改定にも努めています。



都市部ではストリートチルドレンに関する問題が深刻です UNICEF/Baquer Namazi

みんなの感想

ぼくはエジプトといったらピラミッド！といった知識がなかったけど、大澤さんのくわしい解説で、ふだんは知ることのできたエジプトの人びとの現状をありのままに知ることができました。参加してくれたみんなはどう思ったかな？



大澤さんイロイロありがとうございました！子どもたちの生活など、とても勉強になりました！ (三木 綾子 13歳)

今までたくさんの質問に答えていただきありがとうございました。おかげさまで、エジプトについて知らなかったことを今いろいろと知ることができました。(今回のメールを、今度も読み返して、活用できたらと思っています)エジプトで教育に関して、これからどんな発展がみられるか見守りたいです。経済の発展による社会の安定を期待したいです。 (けいこ 15歳)

やっぱり、アフリカの中で最も裕福だと言われているエジプトにも、貧富の格差はあるんですね。しかも、住民の約半数が1日2ドル以下で暮らしている地域もあり、その一方で優雅な生活を送っている人もいて……あらためてびっくりしました。大澤さんのメールからエジプトのさまざまな問題を知ることができました。 (品川 夏乃 16歳)

今まで想像していたカイロのイメージと違って、カイロがすごく治安が良いということに驚きました。大澤さん、お返事ありがとうございました。私も早くエジプトへ行ってみたいと思います。 (中佐 友衣 16歳)

日本にいる私たちは、エジプトの人がどういう暮らしをしているのか知る機会はあまりありませんでした。今回は、実際に現地にいる大澤さんから直接届くメッセージで、本当のエジプトの姿を知ることができたと思います。エジプトにも、たくさんの問題があることがわかったけど、いろいろな人がそれを解決するために努力していることもわかりました。私たちも、もっと現地の状況を知って、自分たちにできることをやりたいと思いました。大澤さん、どうもありがとうございました！ (秦 聖一郎 17歳)

メーリングリストに参加しませんか？

今、メーリングリストがアツイ！！

日本全国にちらばるユニセフ子どもネットワークが、電子メールを使って意見交換できる「メーリングリスト」に参加しませんか？現在、約90人のネットワークたちがメールで熱いトークをくりひろげています！おもうしこみは、子どもネット事務局まで。

電子メール: jcuinfo@unicef.or.jp